

熊本マンガミュージアム構想基礎調査

～シンポジウム「マンガ文化で熊本を活性化」開催報告を中心に～

Kumamoto Manga Museum Concept Fundamental Survey:

Focusing on the ‘Kumamoto Vitalization through Manga Culture’ symposium report.

小川 剛

Tsuyoshi OGAWA

崇城大学芸術学部デザイン学科助教

Assistant Professor, Department of Design, Faculty of Art, Sojo University

キーワード：マンガ、マンガ研究、マンガと教育

Keywords : Manga, Manga Studies, Manga and Education

要旨

本稿は、熊本でこれまで行われてきたマンガ関連の催事や展覧会を調査し、その主催団体や経緯など現状を明らかにするものである。また、熊本にゆかりのあるマンガ家およびマンガ業界関係者の調査報告も併せて行う。これらの調査内容は、2014年8月7日崇城大学にて開催されたシンポジウム「マンガ文化で熊本を活性化」で得られた情報を中心に筆者が追加調査したものである。熊本におけるマンガを活用した事例調査は、今後の地域振興に生かすことができる可能性を明示している。

Summary

This paper presents a survey of manga related events and exhibitions carried out to date in Kumamoto, providing insight to the current circumstances of event particulars and organizing bodies, etc., while additionally identifying related parties such as manga artists and manga businesses associated with Kumamoto. These surveys build upon research presented at the symposium ‘Kumamoto Vitalization through Manga Culture’ held at Sojo University on August 7th, 2014. Case studies of the practical application of manga in Kumamoto demonstrate its potential for regional promotion henceforth.

1. はじめに、研究概要

今、全国各地でマンガコンテンツを活用した産業振興や観光振興などが盛んである。またマンガをテーマにした文化施設やマンガを専門的に学ぶことができる教育機関がつくられるなどマンガ資源を活用した文化振興が盛んである。

熊本でもこうした流れは同様にみられる。産業、観光振興へのアプローチとして民間団体や地方自治体が主導となってマンガを活用したさまざまな取り組みが行われている。また文化振興という点においても、熊本はマンガ家などマンガ文化を担っている関係者を特に多く輩出している地域でもあり、マンガと深い関わりがあることなどから、マンガ文化を保存、継承するためのマンガミュージアムを作るという構想もある。

本研究は2014年8月に開催した、シンポジウム「マンガ文化で熊本を活性化」―マンガを活用した民・官・学の取り組み―マンガ文化は地域をいかに変えうるのか？を通して、熊本がこれまでに行ってきたマンガに関する取り組みを情報収集するとともに、「くまもと×マンガ」をキーワードに基礎調査を行うものである。

2. 研究目的

本研究の目的は熊本がこれまでに取り組んできたマンガ関連の先行事例を調査することで、熊本が有しているマンガ資源を明らかにすることである。マンガ資源には熊本出身のマンガ関係者、熊本を拠点に活動している人や団体、活動内容などが挙げら

れる。

本研究では基礎調査を重視し情報収集と基盤形成に努めることとする。

3. シンポジウム開催

3-1 シンポジウム概要

- ・タイトル 「マンガ文化で熊本を活性化」
―マンガを活用した民・官・学の取り組み―マンガ文化は地域をいかに変えうるのか？
- ・開催日 2014年8月7日（木）
- ・時 間 15：00～18：00
- ・会 場 崇城大学芸術学部棟 D-107
- ・対象者 一般公開 事前申し込み不要
- ・参加数 約100名
- ・主 催 マンガミュージアム研究会／京都大学地域研究統合情報センター／仁愛大学
- ・協 力 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト／NPO 法人グランド12
- ・後 援 熊本県、熊本市
- ・出演者 橋本博（NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表）松江慎太郎（NPO 法人グランド12代表）兼田奈緒美（湯前まんが美術館）小川剛（崇城大学芸術学部デザイン学科助教）
- ・コメンテーター 表智之（北九州市漫画ミュージアム専門研究員）谷川竜一（マンガミュージアム研究会／京都大学地域研究統合情報センター助教）

- ・司 会 伊藤遊（同上／京都精華大学国際マンガ研究センター研究員）

3-2 発表内容

本シンポジウムでは、熊本において先行的に活動が続ける三団体（湯前まんが美術館、NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト、NPO 法人グランド12）が集い、これまでの活動内容や今後の展望について発表を行った。

湯前まんが美術館は、風刺漫画家の那須良輔氏のコレクションを中心に1992年開設された公共のマンガ文化施設であり、常設展の他に年間数回の企画展を開催している。また毎年11月には「ゆのまえ漫画フェスタ」が催され、数千人規模の集客がある大きなイベントである。

熊本マンガミュージアムプロジェクトの主な活動はマンガ資料の収集保存である。収集した資料は国内でもトップクラスの所蔵数を誇り数十万冊におよぶ。収集した資料の利活用や展覧会の企画など幅広く活動を続け、熊本市内のほか合志市、天草市などとの連携も数多く手がける。

グランド12の代表的な活動は毎年12月に開催される「くまフェス」を主催しており、ポピュラーカルチャーとしてのマンガの活用、発展に寄与している。

また、コメンテーターとして全国のマンガミュージアムを調査する研究チームと既にマンガミュージアムを運営している経験から、北九州市漫画ミュージアムの主任研究員が参加。発表された三者の活動を踏まえて熊本のマンガ資源の可能性について客

観的な視点で解説を加えた。

本シンポジウムでの結果、熊本では数多くのマンガ関連の取り組みが行われていたことが改めて共有された。さらに三者がそれぞれの特徴を活かし、それぞれが役割を持ち分けている結果であることがわかった。当日は平日の昼間にもかかわらず100名を超える来場があった。これはマンガに対する関心の高さの現れであり、本研究の重要性を示唆するものとなった。

本シンポジウムで得られた情報をもとに、調査を進めた結果を以下に記す。

4. 熊本を拠点にする団体と活動内容

先のシンポジウムから見えてきた熊本が有するマンガ資源には大きく2つに分けることができる。1つ目は「熊本を拠点にする団体と活動内容」、2つ目は「熊本ゆかりのマンガ家」である。両者を把握することで熊本が有するマンガ資源と実績の大枠がみえてくる。はじめに、熊本を拠点にする団体三者とその活動内容を記す。

4-1 湯前まんが美術館

湯前まんが美術館は、1992年11月、湯前町出身の政治風刺漫画家・那須良輔の功績を保存・展示する施設として、また、町活性化の核の施設として開館。



図1 湯前まんが美術館外観

建物は「くまもとアートポリス」参加作品。球磨地方の杉と檜を使用し、地元の伝統的な大工技術を駆使した木造建築。大きな「きじ馬」（球磨地方の伝統玩具）をイメージして設計された。主な収蔵品は那須氏の作品、約7,000点。

4-1-1 主な活動「那須良輔風刺漫画大賞」

開館時より23回目実施。時代を取り巻く様々な問題を鋭く捉え続けた那須氏の意思を受け継ぐ一コママンガのコンテスト。審査員は良輔が在籍した漫画集団の先生が務め、毎年国内外から約600点の応募がある。



図2 那須良輔風刺漫画大賞チラシ

4-1-2 主な活動「ゆのまえ漫画フェスタ」

那須良輔風刺漫画大賞同様開館時より開催。コンテストの表彰・展示、風刺漫画大賞審査員による似顔絵・サイン会などを実

施。近年ではマンガ家によるサイン会・トークショー（2013年 村枝賢一、藤田和日郎、岩本佳浩）の他、アニソン歌手（2012年 水木一郎、2013年 影山ヒロノブ、きただにひろし）によるライブも行われ、賑わいをみせる。



図3 ゆのまえ漫画フェスタの様子

4-1-3 主な活動「特別展の実施」

常設展の他に年間6～7回の展覧会を開催している。主な開催内容は以下のとおり。



図4 火の鳥連載60周年記念
阿蘇と手塚治虫
2014年7月19日～10月5日



図6 コミックゼノン展
～北条司・原哲夫・次原隆二が創り出した世界～
2013年10月1日～12月1日



図5 少年サンデー×サッカー
～村枝賢一・草場道輝・田中モトユキ
原画展～
2014年4月26日～7月13日



図7 うえやまとち クッキングパパ原画展
～スイーツとあったかお鍋篇～
2012年11月23日～2013年1月6日



図8 仮面ライダーの世界
～歴代ライダーパネルと村枝賢一
「仮面ライダーSPIRITS」原画展～
2012年9月8日～11月18日



図11 ちばてつや
あしたのジョー原画展
2011年7月8日～8月31日



図9 川崎のぼる 巨人の星原画展
2012年6月30日～9月2日



図12 原画で辿る
石ノ森章太郎の世界
2011年4月15日～5月31日



図10 日本漫画の歴史展
～明治から平成まで Vol.1～
2012年5月19日～6月24日



図13 特撮フィギュア展
2010年11月11日～1月10日



図14 矢口高雄
釣りキチ三平展
2010年6月25日～8月31日



図15 ゲゲゲの鬼太郎
水木しげる展
2009年10月15日～12月6日

4-1-4 その他の活動

「湯前町マンガを活用したまちづくり事業
検討会」(2011年)

クッキングパパをコンテンツとして活用
し以下の取り組みを行った。

【取組の内容】

- ①まんが美術館での原画展
- ②ぶらりまち歩きマンガ展
- ③ラッピング列車
- ④マンガクッキング

「湯前まんが図書館」開設(2013年6月)
湯前駅隣ふれあい交流センター「湯へと
ぴあ」に設置。7000冊の蔵書で利用者にマ
ンガに親しむ環境を提供している。



図16 湯前まんが図書館

4-2 NPO 法人熊本マンガミュージアムプ ロジェクト



図17 NPO 法人 熊 本 マ ン ガ
ミュージアムプロジェク
トロゴマーク

組織概要：

団体名：NPO 法人熊本マンガミュージアム
プロジェクト (以下：クママン)

代表：橋本博 (マンガ古書店キララ文庫店長)

副代表：鈴木寛之 (熊本大学文学部准教授)

活動目的：

熊本県内各地にマンガを活用した地域の
活性化の拠点としてのミュージアムを開設

する。メインとなる拠点には、これまで出版されたマンガ雑誌、単行本、附録、関連資料を収集したアーカイブを立ち上げ、マンガを文化遺産として保存・活用する。

連携機関：

＜熊本＞ 合志市まちづくり戦略室、湯前町 湯前まんが美術館、産業振興課、菊陽町図書館少女雑誌の部屋、熊本近代文学館、熊本市市民協同課

＜全国＞日本マンガ学会、京都国際マンガミュージアム、北九州市漫画ミュージアム、凸版印刷株式会社（文化庁メディア芸術アーカイブ事業担当）、マンガ・アニメミュージアム連絡協議会

活動方針：

1. マンガの魅力をひろく発信する。
多くのマンガ家・マンガ評論家・マンガ好きを生んだ熊本の地域性を活かす。
2. マンガのちからで熊本を活性化する。
みずからの魅力を知ること＝「活性化」
自治体同士の連携で県全体の魅力を再発見。
3. 「熊本マンガミュージアム」の設立をめざす。各地の施設をつないで、県全体をマンガミュージアム化！マンガ100万冊計画！
熊本を「日本のマンガの集積地」に。

プロジェクトの目的：

マンガを素材として熊本の魅力を引き出し地域振興に活用するため、マンガ関連イベントの企画や施設運営のコンサルティング

などを行い、その中核施設としての「熊本マンガミュージアム」建設を目指す。

あわせてマンガに関するあらゆるものを収集し、整理して保存し、必要に応じて閲覧に供する場を設立する。

NPO の事業：

- ①マンガ原本、関連資料を収集・保存する事業
- ②マンガを社会教育に利用する事業
- ③マンガを利用して町おこしを行う事業
- ④ミュージアムの運営母体に係る事業
- ⑤マンガ関連施設、関係機関との協力、連携に関する事業
- ⑥マンガに関連する情報提供事業
- ⑦マンガに関連するコンサルティング、シンクタンクなどに関する事業
- ⑧マンガに関連するイベント、啓蒙活動、産業支援に関する事業

活動の効果：

- ①消滅の危機にあるマンガの原本、関連資料を保護することができる。
- ②マンガを素材として地域の魅力を引き出し、熊本県内における町おこし活動の起爆剤とすることができる。
- ③県内外、あるいは世界中から多くのマンガファンが熊本を訪れる。
- ④データベースの作成、ミュージアムの運営、イベントの開催などを通して様々な雇用の機会が生まれる。
- ⑤マンガ素材が整備されていることで漫画家、アニメーター、ゲームクリエイターなどが熊本を拠点に活動することができる。

活動履歴：

2009年

- ・ 11／14（土） 熊本大学全学教育棟 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第14回例会
「地方自治の批評空間としての新聞マンガ ―宮崎日日新聞を事例として」岡部拓哉氏（「新聞マンガ研究所」主宰）
「理想のマンガアーカイブズ ―金魚屋古書店・鞆図書館（芳崎せいむ・作）における収集・保存・閲覧システム」橋本博

2010年

- ・ 5／22（土） 熊本大学全学教育棟 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第17回例会
「藤野千夜が志村貴子に託したバトン ―『ルート225』、文学から漫画へ」跡上史郎（熊本大学教育学部）
「マンガ家からみたマンガ産業の行くえ」山野車輪（マンガ家）
- ・ 8／25（水）～9／2（木） 熊本近代文学館
企画展「戦後マンガ文化をささえた貸本屋 ―マンガ家水木しげるの時代―」
展示協力・貸本マンガ解説 橋本博
- ・ 11／13（土） 熊本大学全学教育棟 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第19回例会
「‘Geek’から‘Otaku’へ ―オーストラリアの日本文化交流イベントからみる「マンガ・アニメ」のグローバル化―」
濱野健（オーストラリア西シドニー大学大学院博士課程）

「ワンピース公園でみえてきた街づくり」松江慎太郎（NPO 法人グランド12代表）

2011年

- ・ 6／18（土） 熊本大学全学教育棟 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第21回例会
「マンガと地域文化―熊本の事例―」鈴木寛之
「漫画×ミュージアムの市場はどこにあるか―京都の事例と北九州の展望―」表智之
- ・ 7／3（日） 湯前まんが美術館「あしたのジョー原画展」展示準備協力
- ・ 7／4（月） 熊本近代文学館「大宇宙の旅 荒木俊馬展」（松本零士コーナー）展示協力
- ・ 8／14（日） 合志市夏祭り「まんが図書館」（「食農漫画館」臨時開館）
- ・ 8／27（土） 熊本近代文学館「松本零士フェスティバル」（公開インタビュー：橋本博）
- ・ 8／28（日） 熊本日日新聞社新聞博物館 くま TOMO 展おいでよ「熊本まんが王国」
- ・ 10／18（火） NPO 法人「熊本マンガミュージアムプロジェクト」正式発足
- ・ 10／22（土） 湯前町うえやまとちスペシャルイベント ラッピング列車出発式（くま川鉄道湯前駅）、うえやまとちサイン会（湯前まんが美術館）、マンガクッキング in ゆのまえ（ゆのまえ温泉湯樂里）
- ・ 10／22（土）・23（日）・29（土）・30（日） 熊本県農業公園カントリーパー

ク「まんが図書館」開館

- ・ 11 / 6 (日) 熊本市早川倉庫ギャラリー「忍者マンガ展—忍者漫画「ナルト」の人気の秘密に迫る—」「風流町(ふるまち)ロマンフェスタ」協賛企画
- ・ 11 / 12 (土) 菊陽町図書館 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第23回例会「少女雑誌展示室」顛末記」村崎修三(菊陽町図書館「少女雑誌の部屋」担当)

2012年

- ・ 5 / 12 (土)・13 (日)・19 (土)・20 (日) 熊本県農業公園カントリーパーク「まんが図書館」開館
- ・ 5 / 19 (土) 菊陽町図書館 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第24回例会「少女雑誌の部屋」見学会 講師：村崎修三 聞き手：橋本博
- ・ 5 / 19 (土)～6 / 24 (日) 湯前まんが美術館開館20周年記念「日本漫画の歴史展～明治から平成まで～」展示資料＝京都国際マンガミュージアム＋クママン＋湯前まんが美術館
- ・ 6 / 23 (土) NAVARO(熊本市中央街)第1回「漫画ナイト」
- ・ 6 / 30 (土)～9 / 2 (土) 湯前まんが美術館 川崎のぼる「巨人の星」原画展 展示資料協力
- ・ 7 / 11 (水)～9 / 10 (月) 熊本近代文学館特別展「漫画王国熊本マンガミュージアム展」共催：熊本日新聞社 協力：クママン



図18 漫画王国熊本マンガミュージアム展

- ・ 7 / 22 (日) 熊本近代文学館特別展「漫画王国熊本マンガミュージアム展」講演会「熊本とマンガ」藤本由香里(明治大学国際日本学部准教授)
- ・ 8 / 26 (日) 熊本近代文学館特別展「漫画王国熊本マンガミュージアム展」記念シンポジウム マンガミュージアムのこれまでとこれから
「マンガミュージアムの全国的な広がり」と課題」吉村和真(京都精華大学マンガ学部准教授)
「北九州市漫画ミュージアムの挑戦」表智之
「理想の漫画アーカイブを求めて」芳崎せいむ(漫画家)
「NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの目指すもの」橋本博・鈴木寛之
総合討論
- ・ 8 / 26 (日) 熊本県立図書館 合志市マンガデータベース作成会議
- ・ 12 / 2 (日) くまもと県民交流館パレア「LIVE！パレア de 熊本マンガミュージアム」
「徹底解説！熊本ゆかりの漫画家と作

品」鶴本市朗（熊本近代文学館）

「特別企画展示：夏目友人帳 ローカルとグローバル ～意外と知らない？ 夏目友人帳のひろがり～」展示協力＝緑川ゆき非公式ファンサイト「あかい花」

2013年

- ・ 5／18（土）～19（日） 熊本県東京事務所「中野 BW・くまもと連携プロジェクト」「きなっせ！アニメ・漫画の舞台「くまもと」へ～くまもとアニメ・漫画月間 in 中野～」展示資料協力
- ・ 6／1（土） 湯前町「湯前まんが図書館」開館 展示協力
- ・ 6／8（土） 熊本大学文法学部棟 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会 第27回例会「NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトのこれまでとこれから」
- ・ 7／6（土）・7（日） 日本マンガ学会 第13回大会（北九州市漫画ミュージアム）＊地域展示コーナーにてクママンパネル展
- ・ 7／18（木）～9／2（月） 熊本近代文学館特別展「くまモンと一緒に ひのくに古代冒険」特設コーナー「歴史マンガ読み放題」 会場：熊本近代文学館ロビー 展示資料協力
- ・ 10／2（水）～8（火） 「日本マンガの歴史展」会場＝鶴屋本館8階催事場 古書籍即売展会場 資料提供
- ・ 10／5（土）・6（日） 鶴屋古書籍即売展文化講演会 会場＝鶴屋本館8階催事場 古書籍即売展会場 主催＝熊本県古書籍商組合
- 5日（土） テーマ「ゴミがお宝にーマンガビンテージ化の条件」講師 山下隆

生（グエル書房）、橋本博

6日（日） テーマ「熊本とマンガー熊本ゆかりのマンガ家、評論家、原作者」

講師 鶴本市朗（熊本県立図書館参事）、橋本博

- ・ 10／12（土）～14（月・祝）・19日（土）・20日（日） カントリーパークバラまつり「マンガ図書館」開館（バラの漫画＋食農マンガ展）熊本県農業公園カントリーパーク

2014年

- ・ 1／30（木）～3／24（月） 熊本県立図書館貴重資料展・熊本近代文学館特別展「富永コレクションが語る 肥後の武」「時代劇漫画読み放題コーナー」展示資料協力
 - ・ 3／2（日） パレアまつり会場＝パレア第3会議室 「犬の会 in パレア ～マンガ・アニメに登場する熊本～」展示協力＝緑川ゆき非公式ファンサイト「あかい花」
 - ・ 3月末 『カタルパの樹 ―合志義塾ものがたり―』発行：合志市・合志市教育委員会
- 作画／彩宮純 原案／橋本博 監修／岡村良昭・伊藤利明 協力：クママン



図19 『カタルパの樹 ―合志義塾ものがたり―』

- ・ 4 / 22 (火) ~ 6 / 1 (日) 合志市西合志郷土資料館 「カタルパの樹~合志義塾ものがたり~」完成記念「合志義塾展」
- ・ 5 / 6 (火) 熊本県立図書館 講演「推しメンから始める読書」鶴本市朗
熊本県立図書館こどもの読書週間記念行事
- ・ 5 / 10 (土)・11 (日)・17 (土)・18 (日) 「マンガ図書館(食農マンガ館)」カントリーパーク「第23回春のバラまつり」企画 熊本県農業公園カントリーパーク
- ・ 5 / 18 (日) 熊本近代文学館 第6回武蔵忌句会 講演「「バガボンド」にみる現代的生き方のヒント」鶴本市朗
- ・ 6 / 21 (土) 熊本大学文法学部棟 日本マンガ学会 九州マンガ交流部会例会「キララ文庫30年の歩み」橋本博
- ・ 8 / 1 (金) ~ 31 (日) 室山まゆみの軌跡展 くまもと森都心プラザ図書館 3階
- ・ 8 / 17 (日) 森都心プラザ 文化発信ワークショップ よみきり企画「1日限定マンガ図書室」 くまもと森都心プラザ6階
- ・ 9 / 28 (日) かごしまメルヘンホール 講演「佐々木マキさんのマンガとガロの時代」橋本博(かごしまメルヘン館特別企画展「佐々木マキ見本帖」9月26日~11月10日開催)
- ・ 10 / 11 (土)・12 (日)・18 (土)・19 (日) カントリーパーク秋のバラまつり「食農マンガ館」開館
- ・ 10 / 25 (土) 明治大学中野キャンパス

明治大学リバティアカデミー オープン講座(熊本県市長会連携講座)

「中野・熊本・吉祥寺:「熊本」のマンガ凝縮力」藤本由香里・堀江信彦・橋本博

- ・ 11 / 28 (金) 人吉商工会議所 3階
おもてなし講座「人吉球磨 妖 巡礼行~アニメの舞台をめぐる~」鈴木寛之

4-3 NPO 法人グランド12



図20 NPO 法人グランド12ロゴマーク

「くまもとをマンガの聖地にしよう」というコンセプトで活動をスタート。マンガを通して熊本を活性化させること、マンガ家やアーティストを目指す若い人材を応援するしくみを構築することを目的とし、熊本の有志が集まり活動が続いている。ワンピース公園、アニメ声優さんアナウンス、キャラクターモニュメント、キャラクター電車、マンガグランプリ、定期的なワークショップ、生活シーンへのマンガコンテンツの展開などの構想を持つ。

活動履歴

2011年

- ・ 3 / 8 (火) グランド12公式ウェブサイト開設
- ・ 4 / 23 (土) 「くまもと城下まつり」

市電無料運転キャンペーン告知協力

- ・ 6 / 14 (火) 第一回空想尾田栄一郎記念館デザインコンペ企画案募集
- ・ 8 / 21 (日) 上天草無人島巡り&島遊び体験ツアー実施
- ・ 11 / 19 (土) 熊本市政令市イベント参加
ラッピング電車出発祝賀セレモニー参加
ゲスト：田中真弓
- ・ 11 / 20 (日) 講演会「アニメ・マンガを活かした地域振興」山村高淑（北海道大学）
- ・ 12 / 11 (日) 熊本名産みかん PR のためのみかん配布 協力：(株)藤本物産

2012年

- ・ 4 / 14 (土) 熊本ゆかりのマンガ図書館 in 健軍商店街



図21 熊本ゆかりのマンガ図書館

- ・ 4 / 28 (土) グランド12ダンス部 (=ぐらだん) 出演 くまもと城下まつり参加



図22 ぐらだん出演の様子

- ・ 5 / 12 (土) マンガ図書館 in TKU の日 S1 グランプリ 動物園前庄口公園
- ・ 5 / 27 (日) マンガ図書館 in 湯ったり菊池「軽トラ朝市」菊池市迎町・中央通・立町商店街
- ・ 8 / 11 (土) ぐらだん出演 熊本空港エミナースナイトパーティー
- ・ 8 / 18 (土) ぐらだん出演 ぼうさいカフェ グランメッセ熊本
- ・ 8 / 25 (土) ぐらだん出演 川尻夏祭り
- ・ 8 / 26 (日) 上天草無人島 島巡り&島遊び体験スタンプラリー
- ・ 11 / 3 (土) ~ 2013年 3 / 30 (土) 響創塾



図23 響創塾

熊本合志市、熊本高専と連携して、マンガ・アニメクリエイター育成プロジェクトを実施。講師：ヤマサキオサム、千羽由利子、陸川和男

- ・ 12 / 1 (土) 講演会「熊本から世界へ僕のマンガ人生」出演：堀江信彦（編集者）くまもと県民交流館パレア
主催：くまもとファッション協会、NPO グランド12 協賛：鶴屋百貨店 後援：熊本商工会議所、熊本日日新聞社、

RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791

- ・ 12 / 2 (日) 「くまフェス2012」開催



図24 くまフェス2012 メインビジュアル

センターコート、熊本城、辛島公園、城彩苑周辺で開催されるマンガ・アニメ・ポップカルチャーの祭典

主催：NPO 法人グランド12、熊本市、熊本城下のまちづくり協議会桜町地区会議 特別協賛：セルモグループ 協賛：(株) ブシロード、たつのこ、(株) ハウスレッシュ、(株) キューネット、寺原自動車学校、熊本第一信用金庫、(株) オニザキコーポレーション、(株) フェザンレーブ、(株) まちづくり熊本 後援：熊本商工会議所、熊本日日新聞社、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791

2013年

- ・ 4 / 27 (土) ぐらだん出演 熊本城下まつり
- ・ 8 / 18 (日) 上天草無人島アドベンチャークルーズ フィッシャリーナ天草
- ・ 10 / 12 (土) マンガ図書館 in 川尻まちの駅
- ・ 10 / 13 (日) くまフェスバンド予選会 城下町くまもと銀杏祭サンロード de

カーニバル

- ・ 12 / 8 (日) くまフェス2013

主催：熊本城下のまちづくり協議会 桜町地区会議・NPO 法人グランド12

2014年

- ・ 6 / 14 (土) マンガ図書館 in ユーパレス弁天
- ・ 6 / 21 (土) マンガ図書館 in 川尻商店街「まちの駅」
- ・ 7 / 26 (土) ぐらだん出演 城下町くまもとゆかた祭 上通りびふれす広場
- ・ 7 / 26 (土) ぐらだん出演 たくま夏祭り
- ・ 8 / 2 (土) ぐらだん出演 菊池ショッピングプラザ夢空間
- ・ 8 / 2 (土) ぐらだん出演 うと地藏祭り
- ・ 8 / 30 (土) ぐらだん出演 川尻わっしょい
- ・ 11 / 1 (土) ~ 3 (月) 中国・上海コスプレパフォーマンス集団「青空之憶 COSPLAY 社団」と交流

上記三者の活動の他にも、熊本市現代美術館では、2009年4月「井上雄彦最後のマンガ展 重版熊本版」、2011年11月「西原理恵子博覧会 バラハク」、2014年9月「天野喜孝展 想像を超えた世界」が開催された他、菊陽町図書館の少女誌コレクションや県立文学館の取り組みなど数多くの催し物が実施されている。

5. 熊本ゆかりのマンガ家

2つ目のマンガ資源として挙げられるのが熊本ゆかりのマンガ家、マンガ関係者である。2014年11月末時点調査結果を記す。マンガ家90名以上、関係者を合わせると100名を超える。

マンガ家 あ行

氏名	代表作
麻生みこと	「そこをなんとか」「路地恋花」「海月と私」
香魚子	「シトラス」「伯爵と妖精」 短篇集「さよなら私たち」 「隣の彼方」
荒井裕子	「コーラでカンパイ！」
有吉京子	「SWAN」
井上雄彦	「SLUM DUNK」「バガボンド」
岩崎陽子	「王都妖奇譚（おうとあやかしたん）」
うすた京介	「ピューと吹く！ジャガー」
内山安二	「コロ助の科学質問箱」『学研の科学』元毎日新聞社
内山大助	「きょうはなぜ？」
宇土まんぶ	「パロパロ」
江口寿史	「ストップ!!ひばりくん！」 『COMIC CUE』
蛭子能収	「地獄に堕ちた教師ども」
FBC	「プリズム・アーク」
大石浩二	「いぬまるだっし！」
尾田栄一郎	「ONE PIECE」

マンガ家 か行

氏名	代表作
川崎のぞみ	「2本足の犬」
川崎のぼる	「巨人の星」
勘崎順次	「真夜中の騎士」
神埼裕也	「ウロボロスー警察ヲ裁クハ我ニアリー」

草風みずほ	「暁のヨナ」
久木田律子	「ロクが帰る日」
こいずみまり	「看護婦さんへ GO！」
小ガエル	「ど根性小学生ボン・ビー太」
古閑裕一郎	「となりの山田さん」
小手川ゆあ	「おっとり捜査」
ゴトウマサフミ	「くつしたがだるだるになっちゃうわけ～イマドキ妖怪図鑑～」
近藤洋助	「てんてこ営業日誌」

マンガ家 さ行

氏名	代表作
紗織	「悪い噂」
酒井美羽	「ハッピートラブル・うえでいんぐ」
坂本憲司郎	「突撃チキン！」『コミックボンボン』
桜田幸子	「おっぱいの達人」
島かおり	「恋はモーニング気分」
清水玲子	「月の子 MOON CHILD」
城野晃	「日本の首領」(画)
園田健一	「Gun Smith Cats」

マンガ家 た行

氏名	代表作
高鍋千歳	「アンダーグラウンド」
高浜寛	「イエローボックス」
たがわ靖之	「包丁無宿」『別冊漫画ゴラク』
竹下けんじろう	「パープル」「釣り屋ナガレ」
武下純也	「日本の問題」
田島みるく	『本当にあった愉快な話』
立迫文明	「仰天人間バトシーラー」
立場良	「カエル日」
田中圭輔	「恋する AI」
ダーティ・松本	(成人向け漫画)
D 否	「綾のかるた」
月夜の珈琲館	「一夜の出来事」

堤寒三	(政治マンガ)
津山ちなみ	「HIGH SCORE」
とり・みき	「遠くへいきたい」

マンガ家 な行

氏名	代表作
中川沙樹	「進撃！巨人中学校」
中ノ尾恵	(成人向け漫画)
ながやす巧	「愛と誠」(画)
那須良輔	(政治風刺マンガ)
にしまじん	「熊元拳」
西餅	「犬神もっこす」
ねこクラゲ	「曹植系男子」

マンガ家 は行

氏名	代表作
函岬誉	「嫁姑の拳」
浜坂高一朗	「ポカちゃん」
東村アキコ	「主に泣いてます」
ひなた皓	「黄昏キッチン」
広瀬美和	「ステディな関係」
ヒロモト森一	「要塞学園」 コナミ「パロディウスだ！」
フカザワナオコ	「B 型自分の取扱書」
フジヤマジョージ	「カンちゃん」

マンガ家 ま行

氏名	代表作
松下容子	「闇の末裔」『花とゆめ』白泉社
松森正	「黒い疾走の終わり」『ヤングコミック』
岬下部せすな	
箕神北都	
三剣もとか	「ドラゴンクエスト4コママンガ劇場」
緑川ゆき	「夏目友人帳」『LaLa』
三山のぼる	「メフィスト」
村枝賢一	「俺たちのフィールド」

村田真優	「ドクロ×ハート」
室たた	「ごめん、大嫌い」
室山まゆみ	「あさりちゃん」
森真理	「銀のしっぽ」
守江洋子	「迷宮遊戯」
森本梢子	「ごくせん」

マンガ家 や行 わ行

氏名	代表作
吉開寛二	「思い出の味 大陸食堂」
吉崎観音	「ケロロ軍曹」
吉本蜂矢	「デビューマン」
ゆきのぶ	
ゆみみ	「ジャンク」
夢野まこと	「スタイリッシュに恋をして」
若月千寿	「サムライベイビー」
渡邊築	「恋するエンジン」

マンガ原作者

氏名	代表作
梶原一騎	「タイガーマスク」
坂田信弘	「風の大地」

マンガ編集者、マンガ研究者、コレクター

氏名	代表作
橋本博	熊本マンガミュージアムプロジェクト代表
藤川治水	映画評論家「こども漫画論」 「熊本シネマ巷談」
藤本由香里	明治大学国際日本学部教授
堀江信彦	『コミックバンチ』創刊 元『週刊少年ジャンプ』編集長
村崎修三	少女雑誌コレクター
吉村和真	京都精華大学マンガ学部教授
米澤嘉博	コミックマーケット創設者

6. 考察と展望

調査結果から「熊本を拠点にする団体と活動内容」と「熊本ゆかりのマンガ家」の情報を把握することができた。熊本を拠点に活動している団体は、それぞれ特徴やスタンスに違いがあることがわかった。湯前まんが美術館は公共文化施設であり郷土の作家那須良輔のコレクションと漫画大賞を中心に活動している。クママンは民間でありながら、マンガ資料のアーカイブとその活用法の模索に主軸がある。そしてグランド12は、くまフェスに代表されるマンガのポピュラーカルチャーとしての側面の利活用に取り組んでいる。このように三者三様の取り組みが多様な結果となっている。

これらの熊本の成果を念頭にマンガミュージアムが持つべき機能と照らし合わせてみたい。マンガミュージアムは、マンガの総合文化施設とも言い換えられるが、その機能は大きく3つある。1：マンガ資料を収集保存する図書機能。2：マンガ資料を活用した研究機能。3：研究成果の一般公開、社会還元（展覧会、イベント）する催事機能の3つである。

3つの機能と熊本の活動内容を照らし合わせてみると、1の資料の収集保存は、湯前とクママンが担っている。2の研究活動は湯前、クママン、そして本学が担っている。3の催事機能は湯前、クママン、グランド12すべての団体がカバーしている。さらに催事機能は企画の硬軟、規模の大小にかかわらず民間でも行うことができる。また県や市などの公的機関が主体になって実

施してもいい。このように考えてみると施設としてのマンガミュージアムがひとつの場所に集約していないだけで機能としては既存団体ですでに賄えている状態である。

この形は今後、地方都市における文化施設のあり方を示唆するものだとも言える。従来の文化施設はひとつの行政区にひとつずつ施設があり、その施設にすべての機能を持たせることを前提に運営されることが多い。一方本研究で見えてきた熊本の現状は複数館でその機能を役割分担し、それぞれが補完し合っている特徴を持つ。各団体の特徴や得意な領域を尊重しつつ、関係性やネットワークだけを密にする。マンガミュージアムという冠は関係性そのものを指し示す総称として名付けるのである。これは分散型文化施設とも言え、街全体が文化施設化するとも言える。平たく言えば観光地になりうるということである。特にポピュラーカルチャーの側面が強いマンガ領域においては、産業や観光との関わりは外すことができない。そうした視点から鑑みてもマンガをひとつの限定された箱（施設）に入れるのではなく、常に同時多発的に催事や展覧会を行うことができる環境が重要である。これは今後の地域振興の新たな可能性を指し示していると言えるだろう。マンガをじっくり読みたい人もいる。マンガの原画を絵画作品のように鑑賞したい人もいる。ファン活動としてアニメソングのライブやコスプレのパフォーマンスがあってもいい。一方で公民館や図書館、病院の待合室にシニア世代が懐かしく読むことができるマンガの特集棚があってもおもしろい。往年のアニメ鑑賞会がいたるところで

行われていてもいいだろう。

マンガはけっして子供だけのものではなく、アイデア次第で老若男女すべての人々に活力を与えるコンテンツである。

マンガをもっと柔軟に捉えて活用することで私たちの生活はより豊かに意義のあるものになるに違いない。マンガにはそれらを受け止めるだけの度量と力を持っている。

本稿が、これから進められる熊本マンガミュージアム構想の礎となり、マンガ文化が有意義に活用され地域に還元される一助となることを願う。

[参考資料]

奥田奈々美「日本のまんが博物館—その現状と課題」『博物館研究』Vol. 39 No. 10、財団法人日本博物館協会、2004

表智之・金澤 韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが出会うとき』臨川書店、2009

山村高淑『アニメ・マンガで地域振興』東京法令出版、2011

経済産業省関東経済産業局「2020年東京オリンピック・パラリンピック活用地域活性化戦略プラン検討会」中間とりまとめ報告書、2014

日本のアニメを活用した国際観光交流等の拡大による地域活性化調査

湯前まんが美術館

<http://yunomae-manga.com/>

NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト

<http://www.kuma-man.com/>

NPO 法人グランド12

<http://www.grand12.com/>

[謝辞]

本研究にあたり、シンポジウムに参加、協力いただいた皆様に感謝申し上げます。またデザイン学科「地域プロジェクト2014」オガワ研究室所属学生の協力に対してもあわせて感謝の意を表します。